

令和8年度 福井野中学校「学ぶ力」育成プログラム

学校番号：37010

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

「学ぶ力」	
成果	課題
<p>◇全国学力・学習状況調査結果より、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き「困りごとや不安を先生に相談できる」割合が高い。教職員と生徒相互の信頼関係が、安心して過ごせる環境につながっている。 ・自分とは異なる意見について考えることは楽しい」「周りの人の考えを大切に、お互い協力しながら課題解決に取り組んでいる」との回答が平均より 20 ポイント近く高く、昨年度より増加している。 ・「人が困っているときは進んで助けたい」「地域や社会をよくするために何かしてみたい」と答える割合が平均より 20 ポイント近く高い。自己有用感の高まりが「学校に行くのが楽しい」と答える割合の高さにつながっている。 ・総合的な学習の時間では、課題探究的な学習や ICT 機器を活用した発表を通して、学びの手ごたえを実感している生徒が多い。 	<p>◇全国学力・学習状況調査より、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本の定着に課題を抱える生徒が多い。反復学習や既習内容の活用機会を意識的に設定するとともに、生徒一人一人の特性に応じ、授業内で学習への具体的なアドバイス等が必要である。 ・家庭学習について、昨年度より学習時間が「少ない」または「全くしない」割合が若干増加している。自分で計画を立てて学習すること等、自ら学びに向かう姿勢を育み、学習習慣の定着を図る工夫が必要である。 ・授業においては ICT 機器を使用した割合は昨年度より増加しているが、各家庭で普段から ICT 機器を学習のために使用している割合が低めである。 ・家庭での読書や新聞等、日常的に文字から情報を得る機会を増やすことが、語彙の増加等、基礎学力の向上につながると思われる。
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の態度〉の現状と課題	
<p>◇授業等において、ペア・グループ活動を取り入れる場面は多く、他者と関わりながら学ぶ経験を意図的に設定している。</p> <p>◇授業の導入を工夫することで生徒の関心を引き出し、主体的に学びに向かう態度を醸成することをねらっているが、既習内容を活用し学習課題の解決策を考える場面では、学習の積み重ねの課題等から消極的になる生徒が多く、協働を通して学びを深めるところまで至らない場合が多い。</p>	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

自己肯定感・自己有用感を育み、自律的に学びに向かう力

取組	課題探究的な学習の推進 に向けて	自治的な活動の充実 に向けて
	<p>①AAR サイクルの視点を生かした学習支援等の工夫</p> <p>興味関心を引き出す導入や教材等の工夫を継続して行うとともに、特に振り返りの場面では、自らが学びや成長の手ごたえを実感できるよう、学びの足跡を可視化する等の工夫を図る。つまづきを感じた生徒には、TT や学びのサポーターによる個別の支援策を随時検討する。また、学習習慣の定着化につながる取組を全校で行う。</p> <p>②様々な場面における課題探究的な学習</p> <p>これまでに成果のあった「総合的な学習の時間」における取組を、自治的な活動等、学校生活の様々な場面で生かせるよう検討を進める。各々の興味や問題意識をもとに課題を設定し、意見交流や解決策の検討を行う等、協働する場面を工夫する。</p>	<p>①めざす生徒像『「自律した自分づくり」をめざす生徒』に向かう取組</p> <p>様々な教育活動が「めざす生徒像」につながるように、学校行事や生徒会活動等を整理し、ねらいを明確にした取組につなげる。</p> <p>生徒会が中心となり、生徒の声を引き出し、共通の願いとしてまとめ発信することで、学年・学級の取組等に生かす仕組みを作る。その中で見えてきた成果や課題を全校協議会等の場で交流し、各委員会等で改善策等について話し合い実行する等、様々な場面で、話し合い→実行→振り返りのプロセスを学ぶ機会を設け、やがて生徒自らの手で実行できることを目指す。</p> <p>②相互承認を意識した振り返りの場の設定</p> <p>「よい点」「助かった点」等を交流し、互いの頑張りを尊重し、ねぎらう学校文化を醸成する。</p>
「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICT の活用について		
<p>◇自治的な活動の充実に向けて、生徒一人一人の声を引き出し生かすための ICT 機器や掲示版、校内放送等の活用策を検討し実施する。(Google フォーム等を活用し、生徒会行事等の振り返りを可視化し成果を共有する等)</p> <p>◇生徒が目的に応じて ICT 機器を選択・活用できるよう、授業内での活用を促進するとともに、家庭での効果的な活用例について紹介する等、より身近な活用の浸透を図る。</p>		

<本プログラムの実行に向けて>

